

2025 年度 京都精華大学
自己点検・評価報告書

2026 年 9 月

目 次

はじめに	p.3
1. ビジョン 2034（中期計画）の進捗状況（法人）	p.5
2. 理念・目的	
3. 教育研究組織	p.6
4. 内部質保証	
5. 教育課程・学習成果	p.7
6. 学生の受け入れ	
7. 教員・教員組織	p.8
8. 学生支援	
9. 教育研究等環境	p.9
10. 社会連携・社会貢献	
11. 大学運営・財務	p.10
（別紙1）部局別自己点検評価報告書フォーム一覧	

はじめに

【2025 年度自己点検評価基本方針】

京都精華大学は、2022年度に受審した認証評価で指摘を受けた内部質保証体制の不備に迅速に対応するため、2023年度に京都精華大学内部質保証規程（以下、内部質保証規程という）を策定した。同規程内で学長直下の大学運営会議を内部質保証上の責任主体として定め、全学的な自己点検・評価活動と学長改善指示を中心とした教育改善のPDCAサイクルを毎年恒常的に回している。

自己点検・評価の基本方針については、内部質保証規程第3条で以下の通り設定している。
(<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/report/gjh1lq00000029dg-att/naibushitsuhosyo.pdf>)

第3条 本学の内部質保証は、以下の各号の基本方針に沿って実行されるものとする。

- (1) 学長のリーダーシップのもとに内部質保証のための組織を整備し、全学的な観点から教育研究等に関する改革・改善を推進する。学長は、必要に応じて常務理事会および理事会と連携する。
- (2) 自己点検・評価は、学外の認証評価機関が定める大学評価基準に準拠し、全学、各学部・研究科等部局、授業科目の3つのレベルにおいて実施する。
- (3) 自己点検・評価においては、アセスメントプランに則り、教育活動、教育効果、学生の学習成果について恒常的に測定・評価を行う。
- (4) 自己点検・評価においては、IR担当部門から提供される各種客観的データ等をもとに現状を把握し、長所の把握および改善点の検証に活用する。
- (5) 自己点検・評価においては、学外有識者、学生、卒業生、地域社会、産業界等から意見を得ることで、自己点検・評価活動に対する客観性・公平性を担保する。
- (6) 自己点検・評価、外部評価、認証評価、ならびに教育研究活動、学習成果、教育成果を公表し、社会に対する説明責任を果たす。
- (7) 本学の内部質保証の体制および役割、結果、方向性等について、全ての教職員の理解と共有を促し、組織文化として定着をはかる。

上記方針に基づく2023年度以降の取組により、前回認証評価における指摘事項の改善が確認できたことから、公益財団法人大学基準協会（以下大学基準協会）に対し、2025年7月末に1年前倒しで改善報告書を提出した。その結果、2026年3月27日付で同協会から全ての指摘事項に対して改善が認められたとの決定通知があり、内部質保証の状況をふまえた評価の弾力的措置を受ける要件も満たすこととなった。

2025年度までの自己点検・評価活動においては、前回認証評価における指摘事項への対応に重点を置いていたため、内部質保証、教育課程・学修成果に焦点を絞って実施していたが、上述の通り内部質保証システムに関わる体制の改善が一旦完了したことから、2026年度の実施においては次期認証評価を見据え、大学に関連する全ての事項に対する点検を広く行うこととし、2026年度第1回大学運営会議において、点検対象期間（2025年4月1日から

2026年5月1日) および以下の点検項目が決定された。

	項目
1	ビジョン 2034（中期計画）の進捗状況（法人）
2	「理念・目的」
3	「教育研究組織」
4	「内部質保証」
5	「教育課程・学習成果」
6	「学生の受け入れ」
7	「教員・教員組織」
8	「学生支援」
9	「教育研究等環境」
10	「社会連携・社会貢献」
11	「大学運営・財務」

項目 1 は本学の独自項目、項目2～11については大学基準協会における評価項目および視点をベースとして自己点検・評価を行った。また、上述の内部質保証方針(5)に記載されている自己点検・評価活動への客観性・公平性を担保する取組として、学生が教育の質に関する検証に直接参加する対話イベント「学生モニター制度」、および、学外有識者による外部評価委員会をそれぞれ実施し、広く客観的な意見を聴取した。

本報告書はそれらの点検結果をふまえ、各点検評価項目について評価できる点および改善が必要な点について、まとめたものである。

【自己点検・評価方法】

各部局において、対象期間の実績に基づき、大学基準協会の評価項目に基づいて作成された「2026 年度実施部局別自己点検評価報告書」フォーム(別紙 1)に沿って 2026 年 5 月 7 日～6 月 25 日の期間に点検・評価活動を行った。フォーム内に 2025 年度学生実態調査（在学生・卒業時対象、2026 年 1 月 16 日～3 月 22 日実施）結果の点検も組み込むことにより、学生の声を部局ごとの視点から確認し改善につなげる仕組みとしている。

また、上述の「学生モニター制度」を 2026 年 6 月 9 日に実施し、2025 年度学生実態調査を通して全学的な課題として浮かんできた「満足度の高い授業」「グループワークの効果」「語学教育・支援に求めるもの」の教学に関する 3 テーマについて、教職員と学生間で議論を行った。参加者は学生 20 名（国際文化学部 5 名、メディア表現学部 3 名、デザイン学部 4 名、芸術学部 4 名、マンガ学部 4 名）、教員 9 名、職員 5 名であった。

外部評価委員会においては、学長の諮問機関であることから、2025 年度までの実績をもとに学長が決定した特定の課題についての客観評価を得る活動を行うこととし、学生の受け入れや大学のブランディングを主なテーマとして設定した。他大学、高校、広報、卒業生の採用実績がある企業等多様な観点から、計 5 名の外部評価委員による外部評価委員会を 2026 年 8 月

5 日に実施し、学内からは学長をはじめとした教職員 12 名が参加した。

部局別自己点検評価、学生モニター制度、外部評価委員会はそれぞれ実施後に大学運営会議を通じて報告され、それら一連の結果をもとに学長室にて全学的な観点から点検評価を行い、本自己点検報告書を取りまとめている。2026 年 9 月の大学運営会議で最終的な確認を行い、改善が必要と考えられる事項については 2026 年 11 月の同会議において、次年度に向けた学長改善指示が当該部局に対して出される予定である。

1. ビジョン 2034（中期計画）の進捗状況（法人）

2025 年 4 月に 2034 年を到達点とした新ビジョンが新たに掲げられ、2025 年度はその達成に向けて定められた第一次中期計画（2025－2029）の初年度であった。ビジョン 2034 および中期計画の進捗状況に関しては、経営企画グループおよびグローバル推進グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。中期計画については、2025 年度部署別事業報告、目標達成プロセス管理指標、重点管理指標の結果をもとに年に 4 回開催される理事懇談会にて点検されており、2026 年 6 月に公開された学校法人京都精華大学事業報告書の中で達成状況について記載されている。

【評価できる点】

- ・経営戦略協議会、理事懇談会等、常務理事間の活発なコミュニケーションを通して、ビジョンおよび中期計画の進捗確認と検証が行われている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

特になし

2. 理念・目的

理念・目的に関しては、経営企画グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。本学の建学理念については大学ホームページで広く公開しているほか、全専任教職員を対象とした教職員合同会議において年間複数回ビジョンの再確認を行っている。本学の理念をまとめた小冊子を、入学式で全新入生および来場保護者に配布しており、教育後援会を通して学費支弁者にも理念を伝える機会を設けている。社会への理念浸透を目的とした公開講演会「岡本清一記念講座」が 2026 年 2 月に実施された。

【評価できる点】

- ・2025 年度学生実態調査で建学理念の実践意欲を確認したところ、卒業時実態調査で 92.7%、在学生実態調査で 92.6%の学生が肯定的な回答（「自由自治」「人間尊重」という建学理念を社会でも実践しようと思いますか、という設問で「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択）となり、入学時から卒業時まで建学理念が浸透していることが確認できる。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・現取組の継続と、学外への建学理念の認知度向上に向けた活動が期待される。

3. 教育研究組織

教育研究組織に関しては、学長室グループ、京都国際マンガミュージアムの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。教育組織については、主に全学的なカリキュラム再編・改編の際に理念や社会的要請にもとづく学部学科コース等の構成を行っており、2024年度末に完成した2021年度からスタートした新カリキュラムの検証結果をふまえ、2025年度は学部専門教育科目の卒業要件における比重や進級要件の見直しが行われた。研究組織については全学研究機構を通して定期的な点検評価を行い、成果や課題の確認と改善サイクルを回す体制としている。

【評価できる点】

- ・カリキュラムの完成時に振り返りを行い、その結果から必要な見直しや改編が行われている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・カリキュラム検証結果や教育組織改編など全学に係る事項の変更に関するオーソライズのプロセスが不明瞭な点があるため、プロセスや責任の明確化が必要である。

4. 内部質保証

内部質保証および教学マネジメントに関しては、学長室グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。教学マネジメント上の最高会議体および全学内部質保証推進組織として位置付けた大学運営会議を通して、自己点検評価や外部評価、学生モニター制度を含めた全学的な検証と改善のPDCAサイクルが定着しつつある。

学部・研究科レベル以下の教学マネジメントに関しては、各部局の執行部会議体および各委員会等を通じて検証を行った。また、2024年度自己点検評価結果を受けて2025年11月の大学運営会議で19件の学長改善指示が各部局に対して出されており、2025年度内に対応が必要とされていた指示に対しては概ね対応できていることが確認された。

2026年度以降の対応が必要とされている指示については、2026年度事業計画に指示内容が反映されているかを確認することにより、改善事項の確実な実行をはかっている。

【評価できる点】

- ・学部、研究科、機構における自己点検・評価活動を、各部局の執行部会議体を通して行っており、全ての学部・研究科・機構・事務局において自己点検・評価を行った根拠となる議事録が作成されている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・部局によって学部 DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性、それに対する教員の理解度および学生への説明状況に改善の余地がある。（2023 年度から継続課題）
- ・教育企画設計に関する責任の所在とプロセスに不明瞭な点があるため、改善の余地がある。

5. 教育課程・学習成果

教育課程・学習成果に関しては、各学部、各研究科、全学教育機構および教学グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。学部・研究科の自己点検・評価では、本項目に関する点検箇所を「教学マネジメント」と「DPに基づいた学修成果の把握」の2テーマに分けて実施した。

2024 年度に刷新したアセスメントプランにおいて、各学部・研究科の専門領域の特色をふまえた学習成果の設定と検証を行うことを目的として、全学共通指標に加えて学部・研究科独自指標を設定しており、2025 年度は初めて独自指標を活用する部局が確認された。

【評価できる点】

- ・前回自己点検時は活用されていなかった科目別の成績分布状況に関するデータが提供されるようになり、各学部での検証に活用されている。
- ・新アセスメントプランにもとづき、複数の学部・研究科において、学部・研究科の特徴的な学習成果の把握と検証が行われている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・共通教育に関する必修科目修得状況や成績、単位等の教育の成果に関する点検活動が確認できないため、2026 年度事業計画に改善対応策について反映済。
- ・オンライン授業における学習支援や配慮対応の実態について、大学として十分な把握ができておらず、把握と検証が求められる。
- ・シラバスの「評価方法、評価基準」の具体性について改善を要する部局があり、非常勤教員も含めた全体的な FD の実施が求められる。
- ・各学部研究科による独自指標の検証と活用が 2025 年度学長改善指示に出されていたが一部実行が確認できない部門があるため、毎年の継続的な把握と検証とが求められる。

6. 学生の受け入れ

学生の受け入れに関しては、入学部、全学部・研究科、広報グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。2025 年度は経営上の最重要課題として入学定員充足率 100%、入学者数目標 992 名が重点管理指標として設定され、従来の学生募集活動のほか、新特待生制度の認知拡大、留学生を対象とした広報や各種手続きのオンライン化、オープンキャンパスの充実等による多様な志願者層に対する広い情報提供が行われた結果、入学定員充足率 104.2%、入学者数 1038 名と目標数値を上回る結果となった。

外部評価委員会のテーマを学生募集とブランディングとしたところ、大学全体としての統一的な情報発信戦略の検討等について指摘があった。

【評価できる点】

- ・2025 年 7 月に配布された 2026 年度入試要項において、AP と各入試との関連についての情報量を増やし、AP と各入試との対応表を記載することで志願者に分かり易い形で明示している。

・広報における学生募集活動において、教育成果の根拠として学生実態調査結果を中心とした各種教学データが参照・活用されるようになっている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

・志願倍率に関わらず、アセスメントプランに設定された新入生アンケート、GPS-Academic 結果等を活用した、入学試験種別の有効性の検証が求められる。

・AP と入試は十分に整合性がある一方、全学、および一部学部における AP と DP、CP との一貫性については不十分な点があることが確認されたことから、改善について検討が必要である。

・大学全体および学部において、認知初期段階で高校生を惹きつける明確なキーワードや統一メッセージ等の検討が必要である。

7. 教員・教員組織

教員・教員組織に関しては、教務部、学長室グループ、全学研究機構の部局別自己点検・評価活動を通して検証された。2024 年度に定めた教員編成方針をもとに、教育研究活動を安定的に実施することが可能な教員組織を、学部と共通教育機構を中心として編成している。同方針において「特定の年齢・性別に偏らないようバランスを確保する」と定めていることから、全学部学科において女性教員比率 30%以上を目標値として掲げ、達成できていない学部学科における採用では女性限定採用を行うなどの取り組みを行っている。

【評価できる点】

・2024 年度に制定した教員編成方針が、教員の採用活動や編成時に実質的に活用されている。
・FD 委員会および各教学組織主催の FD 研修を計 20 件実施し、98.8%と高い教員参加率となっている。

・専任教員女性比率が3年間連続で改善し、2025 年度は前年度から 2.5 ポイント改善し 37.9% となっている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

・役職教員と役職職員との間の役割分担や責任について不明瞭な点があり、各部局および学部・研究科レベルのチェック機能等をはじめとしたガバナンス機能に課題が見られるため、改善が必要である。

8. 学生支援

学生支援に関しては、各学部・研究科および学生部の部局別自己点検・評価活動を通して検証された。日常的な支援内容等については、学生の健康等に関する支援は三室連携会議、修学支援・生活支援・経済的支援・障害学生支援は学生生活委員会、進路・就職支援はキャリア支援委員会を通して検討が進められており、在学生の 3 割を占める留学生を含む多様な学生を支援するための全学的な体制のもとに専門スタッフ配置、経済的支援、相談支援等が行われて

いる。

【評価できる点】

- ・ 2025 年度学長改善指示を受け、学生支援に関する全学的な観点による確認・検証活動が学生生活委員会を通して行われるよう改善された。
- ・ 奨学金担当、キャリア支援、学生相談室への専門的知識を有する職員の配置などを通して、窓口対応の卒業時満足度が前年度より 0.9 ポイントアップし、77%となった。
- ・ 2025 年度学長改善指示として全学部に対して出されていた新入生の不安解消支援対策についての実行が確認された。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・ 学生の自律的な学習を支援する仕組みについて、特定の学科・コース等に限定された対応や個別教員対応のみとなっている部局においては、学部・学科単位で同条件の支援が行えるよう改善する必要がある。
- ・ 2025 年度卒業時実態調査における進路・就職支援満足度が全学で 63.1%と低く、学生のニーズは教員によるキャリア支援に最も多く寄せられていることから、満足度が低い学部・学科・研究科単位での対応策の立案・実施が求められる。

9. 教育研究等環境

教育研究等環境に関しては、学生の学習や教職員の教育研究活動に必要なキャンパス環境の整備については総務グループ、学生の教育研究環境については教務部、学術情報サービス提供および教職員の研究活動支援については全学研究機構および学長室グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。

【評価できる点】

- ・ 2025 年度在学生実態調査の結果、情報館の学生利用率は 97.5%、利用者満足度は 93.9%と高く、ギャラリー、京都国際マンガミュージアムといった教育研究関連施設も同様に 9 割以上の高い利用者満足度である。
- ・ 研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程に基づき公正な研究活動が推進されており、全研究者を対象としたコンプライアンス研修の実施等、法令遵守意識の徹底がはかられている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・ 教育研究等環境に関する方針に対する定期的な点検がなされておらず、方針自体の全学的な認知・浸透が不足している。また、法人と大学の責任および役割が不明瞭であることから、方針の見直しが求められる。

10. 社会連携・社会貢献

京都精華大学の社会連携・社会貢献活動は、本学の研究成果の社会還元を目的とした活動と、外部からの受託事業等対応等を目的とした活動の 2 種に大きく分けられる。前者については

全学研究機構のもとに国際マンガ研究センター、伝統産業イノベーションセンター、アフリカ・アジア現代文化研究センターの3センターを設置し、研究から得られた知見や技術を社会に還元する活動を行っており、全学研究機構を通じた自己点検・評価活動を通して検証された。後者については社会連携委員会で各事業の調整と実行等が確認され、所管である学長室グループの自己点検・評価活動を通して検証された。

【評価できる点】

- ・3センターを中心に、各種展示、シンポジウム、国際学術会議、各種研究会のほか、学外団体や企業、官公庁等と連携したプロジェクト事業の実施など、研究成果の社会還元活動が活発に行われている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・社会連携・社会貢献に関する方針の定期的な点検がなされておらず、方針自体の全学的な認知・浸透が不足していることから、方針と社会連携活動との連動が求められる。

11. 大学運営・財務

大学運営に関しては、理念については経営企画グループ、大学運営体制や教員人事については学長室グループ、法人事務局や職員人事等も含めた組織運営および財務については総務グループの部局別自己点検・評価活動を通して検証された。

【評価できる点】

- ・従来の職員研修体系に加えて教員の研修体系化が部署を横断して行われ、2026年度から新入教職員に対する合同SD研修が実施されている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・学校法人京都精華大学管理運営方針の定期的な点検がなされておらず、方針自体の全学的な認知・浸透が不足している。また、法人と大学の責任および役割が不明瞭であることから、方針の見直しおよび方針と組織運営との連動が求められる。
- ・専任職員に関する採用、昇格等人事、業務評価および評価に基づく処遇改善について、改善の余地がある。

【別紙】 2026年度実施 部局別自己点検評価報告書フォーム一覧

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

広報グループ

5. 学生の受け入れ

5-1. 学生募集活動の現状や成果が上がっている取組および課題について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →	会議体名称		議事録有無	
	把握・検証に活用した根拠やデータを、具体的に記載してください。→ ex)資料請求数、各広報イベント参加者数、イベントからの実入学者数…			
いいえ				

5-2. 5-1の検証結果を活用して点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

5-3. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

5-4. 前年度の学生募集活動は、大学、学部、研究科のDP,CP,APと整合性が取れていましたか？（はい、いいえ）

はい	いいえ	回答根拠 →	
----	-----	--------	--

5-5. 以下の各項目に関連する教学データのうち、前年度～今年度5月末までの学生募集活動、または今年度以降の募集活動に向けて、大学の教育成果の根拠として参照・活用した指標やデータがあれば、全て選択してください。

新入生実態調査（接触媒体、イメージ等）	在学生実態調査（満足度等）	卒業時実態調査（満足度・成長実感等）	
企業アンケート（学生の就職先）	GPS-Academic結果（思考力・経験等）	実就職率	卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）
上記以外 →	()		

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称		議事録有無	
------------	--	-------	--

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

学長室グループ

2. 内部質保証

2-1. 内部質保証方針で基本的な考え方、体制（組織、位置づけ、役割や責任）、手続きを明らかにしていますか？（はい、いいえ）

はい →

当該方針を公表していますか？（○×） →

→

○の場合URLを入力→

いいえ

2-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

教育企画設計と実施、自己点検評価改善活動の全学的な調整と支援を行っているか

回答根拠 →

全学および学部研究科等の自己点検評価を定期的に実施し、結果を活用して改善向上に取り組んでいるか

回答根拠 →

自己点検評価の客観性・妥当性を高めるため、学生や外部の視点を取り入れているか

回答根拠 →

行政機関、認証評価機関からの指摘事項に適切に対応しているか

回答根拠 →

教育研究活動、自己点検評価結果、財務その他の諸活動状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか

回答根拠 →

教育研究活動の情報として、学生の学修実態、学修の成果に関わる情報を分かり易く公表しているか

回答根拠 →

2-3. 内部質保証システムの整備や機能の適切性について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →

会議体名称

議事録有無

概要

いいえ

2-4. 2-2、2-3の検証結果を活用して点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

2-5. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

3 部長の職務内容の

3. 教育研究組織

3-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

大学の理念・目的をふまえ、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織を構成しているか

回答根拠 →

教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組および課題を適切に把握しているか

回答根拠 →

点検・評価結果を活用し、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組につなげているか

回答根拠 →

6. 教員・教員組織

6-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

○

大学として求める教員増や教員組織の編成方針に基づき、教員組織を編成しているか

回答根拠 →

教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか

回答根拠 →

教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか

回答根拠 →

年齢構成に若い層が生じないよう人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか

回答根拠 →

大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか

回答根拠 →

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組および課題を適切に把握しているか

回答根拠 →

8. 教育研究等環境

8-1. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

教育研究環境等の整備に関する方針に基づき、学生の学修環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか

回答根拠 →

9. 社会連携・社会貢献

9-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、学外機関、地域社会等との連携、大学の知見や技術を社会に還元する取り組みを行っているか。

回答根拠 →

社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。

回答根拠 →

社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検評価し、現状や成果が上がっている取組や課題を適切に把握しているか。

回答根拠 →

点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取組み、効果的な取組へつなげているか。

回答根拠 →

10. 大学運営

10-1. 組織のあり方を含む大学運営にかかわる事項の現状や成果、課題について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

確認・検証に活用した根拠やデータを、具体的に記載してください。 →

いいえ

確認・検証の予定時期および予定会議体を記載してください。 →

10-2. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

大学運営に関する方針に基づき、規程に従って大学運営を適切に行っているか。

回答根拠 →

大学運営に必要な組織を整備し、法人・大学運営の業務内容に適した人員が配置されているか。

回答根拠 →

大学運営が円滑かつ効果的に行われるよう、教員と職員の協働・連携を図っているか。

回答根拠 →

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称

議事録有無

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点

改善を要する点（予定時期も明記してください）

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点

改善を要する点（予定時期も明記してください）

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

教務部長・教学グループ長

4. 教育・学習

4-1. 全学および学部別の教学支援内容の適切性について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →	会議体名称		議事録有無	
	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
	①新入生実態調査結果	②在学生実態調査結果	③授業評価アンケート結果（学部）	④卒業時実態調査結果
	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	⑥必修科目修得状況（学部/全学）	⑦単位修得状況（専門/共通）	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
	⑨GPA分布状況	⑩成績分布状況（専門/共通）	⑪学修ポートフォリオ	⑫休学・留年・退学（除籍）率
	⑬標準修業年限卒業率	⑭実就職率		
	⑮その他（用いたものを全て記載してください） →		（ ）	
いいえ				

4-2. 4-1の検証結果を活用して点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4-3. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

6. 教員・教員組織

6-1. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。	回答根拠 →	
教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取組を行い、成果を得ているか。	回答根拠 →	
教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になれるよう図っているか。	回答根拠 →	

7. 学生支援

7-1. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

遠隔授業をはじめ教育でICTを活用する場合は、機器準備や通信環境確保において学生間に格差が生じないよう、必要に応じて対応しているか。	回答根拠 →	
ICTを利用した遠隔授業では、自宅等個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの支援をおこなっているか。	回答根拠 →	

8. 教育研究等環境

8-1. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。	回答根拠 →	
--------------------------------	--------	--

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称		議事録有無	
------------	--	-------	--

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

総務グループ

8. 教育研究等環境

8-1. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生の学修や教員の教育研究活動の必要性に応じて、ネットワーク環境やICT環境を整備し技術的な支援を行い、活用を促進しているか。	回答根拠 →	
---	--------	--

10. 大学運営・財務（総務）

10-1. 組織のあり方を含む大学運営にかかわる事項の現状や成果、課題について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →	会議体名称		議事録有無	
	確認・検証に活用した根拠やデータを、具体的に記載してください。 →			
いいえ	確認・検証の予定時期および予定会議体を記載してください。 →			

10-2. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

大学運営に関する方針に基づき、規程に従って大学運営を適切に行っているか。	回答根拠 →	
役職者、組織の権限と役割を法令に基づき規程上明確に定めているか。	回答根拠 →	
役職者の選任、意思決定や権限執行等を、適正な手続きのもとで行っているか。	回答根拠 →	
意思決定・業務執行に関する法人組織内のチェック機能が働いているか。	回答根拠 →	
予算は適正な手続で編成され、予算執行の透明性は確保されているか。	回答根拠 →	
大学運営に必要な組織を整備し、法人・大学運営の業務内容に適した人員が配置されているか。	回答根拠 →	
大学運営が円滑かつ効果的に行われるよう、教員と職員の協働・連携を図っているか。	回答根拠 →	
必要に応じ、専門知識・技能を有する職員の育成、配置を行っているか。	回答根拠 →	
職員採用、昇格等人事、業務評価、評価に基づく処遇改善を適正に行っているか。	回答根拠 →	
職員及び教員を対象としたＳＤを組織的に実施しているか。	回答根拠 →	
具体的なかつ実現可能な中長期財政計画を策定し、大学運営にあたっているか。	回答根拠 →	
財務関係比率に関する指標または目標を設定し、健全な運営を確保しようとしているか。	回答根拠 →	
教育研究水準を維持向上させるための安定的な財政基盤を確保しているか。	回答根拠 →	
授業料収入への過度の依存を避けるため、学外資金の受け入れや収入多様化を図っているか。それによりの程度の財源が確保されているかが明らかであるか。	回答根拠 →	

10-3. 10-1,10-2の検証結果を活用して点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

10-4. 10-1,10-2において△や×となった事項について、今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称		議事録有無	
------------	--	-------	--

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は**2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動**です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

グローバル推進グループ

0. ビジョン2034（中期計画）

0-1. 本学のグローバル推進の状況について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →	会議体名称		議事録有無	
	確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→	ex) 海外派遣・受入学生数、学生実態調査結果、留学生交流イベント参加者数・・・		
いいえ				

0-2. 確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

0-3. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称		議事録有無	
------------	--	-------	--

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は**2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動**です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

学生部長・学生グループ長

7. 学生支援

7-1. 全学および学部別の学生支援の適切性について、前年度～今年度5月中までに確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

はい →	会議体名称		議事録有無	
	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
	①新入生実態調査結果 ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等） ⑨GPA分布状況 ⑬標準修業年限卒業率 ⑯その他（用いたものを全て記載してください） →	②在学生実態調査結果 ⑥必修科目修得状況（学部/全学） ⑩成績分布状況（専門/共通） ⑭実就職率 (	③授業評価アンケート結果（学部） ⑦単位修得状況（専門/共通） ⑪学修ポートフォリオ ⑮企業アンケート	④卒業時実態調査結果 ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文） ⑫休学・留年・退学（除籍）率 ⑭既卒生アンケート)
いいえ				

7-2. 以下の各項目について点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援体制を整備しているか。	回答 根拠 →	
学生支援にあたり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。	回答 根拠 →	
学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、学生の利用のしやすさに配慮しているか。	回答 根拠 →	
障がいのある学生や留学生の実態に応じた修学支援を行っているか。	回答 根拠 →	
学習の継続に困難を抱える学生（留年、退学希望等）の実態に応じて対応しているか。	回答 根拠 →	
学生に対する経済的支援を、学生の実態等に応じて行っているか。	回答 根拠 →	
学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導・相談を、学生の実態に応じて行っているか。	回答 根拠 →	
全学的なピアサポート体制を整備できているか。	回答 根拠 →	
部活動、ボランティア活動等の正課外活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。	回答 根拠 →	
ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申し立てへの対応など、学生の基本的人権を保障する取組を行っているか。	回答 根拠 →	

7-3. 7-1,7-2の確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 7-1,7-2において△や×となった事項について、今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称		議事録有無	
------------	--	-------	--

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
入学部長・入学グループ長									
5. 学生の受け入れ									
5-1. 学生の受け入れに関する現状や成果が上がっている取組および課題について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）									
	はい →	会議体名称		議事録有無					
	いいえ								
5-2. 全学および学部別のAPの設定の適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）									
				回答根拠を記載してください。→					
5-3. 前年度の入試制度は、APと整合性が取れていましたか？該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。									
	回答根拠を記載してください。→								
5-4. 各入試とAPとの関連性は、志願者にとって分かりやすく明示されていましたか？（5段階）									
	1-4の場合 →	明示方法を選択してください（複数可）		大学HP		入試広報物（媒体名を記載してください）→			
				学部独自資料（→○の場合当該資料を提出ください。）		その他（		）	
5-5. 入試において特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか？該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。									
	回答根拠を記載してください。→								
5-6. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までにAPの設定、入試制度や運用等に関する検証に 実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
	新入生実態調査結果		各種入学試験結果		GPS-Academic結果（思考力・経験等）		プレイメントテスト		
	その他 →	用いたものを全て記載してください。（							
5-7. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
5-8. 現状のAPの設定、APIに基づく入試制度とその運用、志願者への明示方法等について、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
5-9. 現状のAPの設定、APIに基づく入試制度とその運用、志願者への明示方法等について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
京都国際マンガミュージアム									
3. 教育研究組織									
3-1. 京都国際マンガミュージアムの現状や成果が上がっている取組および課題について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）									
		会議体名称		議事録有無					
	はい →	把握・検証に活用した根拠やデータを、具体的に記載してください。→		ex)資料請求数、各広報イベント参加者数、イベントからの実入学者率…					
	いいえ								
3-2. 確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
3-3. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）									
11. 学生実態調査に基づく点検									
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）									
確認・検証会議体名称			議事録有無						
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。									
評価できる点、更に伸ばしたい点									
改善を要する点（予定時期も明記してください）									
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。									
評価できる点、更に伸ばしたい点									
改善を要する点（予定時期も明記してください）									

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書				
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木） 17:00まで				
全学研究機構				
本学の研究・研究推進に関わる状況について、点検対象期間中に確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）				
		会議体名称		議事録有無
	はい →	確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→		
	いいえ			
6. 教員・教員組織				
6-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。				
	教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や質向上を図るために、組織的な取組を行い、成果を得ているか	回答根拠 →		
	大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。	回答根拠 →		

8. 教育研究等環境			
8-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。			
	教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。	回答根拠 →	
	図書館利用者のために、専門知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また図書館の施設環境が適切であるか。	回答根拠 →	
	研究に対する大学の考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分行い、教員の研究活動活性化につなげているか。（研究費支給、研究室、時間確保、人的支援、若手育成の取組等）	回答根拠 →	
	研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取組を行っているか。	回答根拠 →	
9. 社会連携・社会貢献			
9-1. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。			
	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、学外機関、地域社会等との連携、大学の知見や技術に還元する取り組みを行っているか。	回答根拠 →	
	社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。	回答根拠 →	
	社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検評価し、現状や成果が上がっている取組や課題を適切に把握しているか。	回答根拠 →	
	点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取組み、効果的な取組へつなげているか。	回答根拠 →	
11. 学生実態調査に基づく点検			
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）			
確認・検証会議体名称			議事録有無
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。			
評価できる点、更に伸ばしたい点			
改善を要する点（予定時期も明記してください）			
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、「自由記述」に関するデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。			
評価できる点、更に伸ばしたい点			
改善を要する点（予定時期も明記してください）			

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
国際文化学部（現人文学部）									
4A. 教育・学習（教学マネジメント）									
4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行なう、部局執行部の取組として実施していますか？									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-3. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。									
				会議体名称				議事録有無	
4A-4. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。									
4A-5. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									
4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。									
				回答根拠→					
4A-7. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）									
				回答根拠→					
4A-8. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
4A-9. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。									
4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）									
※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと を指します。 学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。									
4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の 学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）		④卒業時実態調査結果			
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）			
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率			
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率							
⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→									
4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
4B-3. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）									
				回答根拠→					
4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？									
はい →		どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。		大学HP		学習のびき2025（当該ページを記載してください。）→		p.	
				その他 →具体的に右に記載してください。		（		）	
いいえ									
4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。									
5. 学生の受け入れ									
5-1. 学部におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）									

		回答根拠を記載してください →			
7. 学生支援					
7-1. 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？					
はい →		会議体名称		議事録有無	
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）	
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率		⑫休学・留年・退学（除籍）率	
⑮その他（用いたものを全て記載してください）→					
いいえ					
7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。					
学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）		回答根拠 →			
新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。		回答根拠 →			
各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。		回答根拠 →			
7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。					
7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）					
11. 学生実態調査に基づく点検					
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになります。）					
確認・検証会議体名称				議事録有無	
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
メディア表現学部									
4A. 教育・学習（教学マネジメント）									
4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行なうなど、部局執行部の取組として実施していますか？									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-3. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。									
				会議体名称				議事録有無	
4A-4. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。									
4A-5. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									
4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。									
				回答根拠→					
4A-7. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）									
				回答根拠→					
4A-8. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
4A-9. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。									
4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）									
※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと を指します。 学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。									
4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の 学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）		④卒業時実態調査結果			
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）			
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率			
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率							
⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→									
4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
4B-3. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）									
				回答根拠→					
4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？									
はい →		どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。		大学HP		学習のびけ2025（当該ページを記載してください。）→		p.	
				その他 →具体的に右に記載してください。		(		)	
いいえ									
4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。									
5. 学生の受け入れ									
5-1. 学部におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）									

		回答根拠を記載してください。			
7. 学生支援					
7-1. 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？					
はい →		会議体名称		議事録有無	
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）	
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率			
⑮その他（用いたものを全て記載してください）→					
いいえ					
7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。					
学生が能力に応じて自律的に学習をすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）		回答根拠 →			
新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。		回答根拠 →			
各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。		回答根拠 →			
7-3. 7-1,7-20検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。					
7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）					
11. 学生実態調査に基づく点検					
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）					
確認・検証会議体名称				議事録有無	
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月未までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
芸術学部									
4A. 教育・学習（教学マネジメント）									
4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行なうなど、部局執行部の取組として実施していますか？									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月未までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-3. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月未までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。									
				会議体名称				議事録有無	
4A-4. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月未までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。									
4A-5. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									
4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。									
				回答根拠→					
4A-7. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）									
				回答根拠→					
4A-8. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
4A-9. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。									
4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）									
※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと を指します。 学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。									
4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月未までに学生の 学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）		④卒業時実態調査結果			
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）			
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率			
⑬標準修業年限卒業率		⑭実績就職率							
⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→									
4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
4B-3. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）									
				回答根拠→					
4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？									
はい →		どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。		大学HP		学習のびけ2025（当該ページを記載してください。）→		p.	
				その他 →具体的に右に記載してください。		（		）	
いいえ									
4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。									
5. 学生の受け入れ									
5-1. 学部におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）									

		回答根拠を記載してください。			
7. 学生支援					
7-1. 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月未までに確認・検証を行いましたか？					
はい →		会議体名称		議事録有無	
確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓					
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）	
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	
⑬標準修業年限卒業率		⑭実績就職率		⑫休学・留年・退学（除籍）率	
⑮その他（用いたものを全て記載してください）→					
いいえ					
7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。					
学生が能力に応じて自律的に学習をすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）		回答根拠 →			
新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。		回答根拠 →			
各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。		回答根拠 →			
7-3. 7-1,7-20検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。					
7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）					
11. 学生実態調査に基づく点検					
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）					
確認・検証会議体名称				議事録有無	
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
デザイン学部									
4A. 教育・学習（教学マネジメント）									
4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行なうなど、部局執行部の取組として実施していますか？									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-3. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。									
				会議体名称				議事録有無	
4A-4. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。									
4A-5. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									
4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。									
				回答根拠→					
4A-7. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）									
				回答根拠→					
4A-8. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
4A-9. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。									
4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）									
※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと を指します。 学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。									
4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の 学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）		④卒業時実態調査結果			
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）			
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率			
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率							
⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→									
4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
4B-3. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）									
				回答根拠→					
4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？									
はい →		どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。		大学HP		学習のびけ2025（当該ページを記載してください。）→		p.	
				その他 →具体的に右に記載してください。		（		）	
いいえ									
4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。									
5. 学生の受け入れ									
5-1. 学部におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）									

		回答根拠を記載してください。			
7. 学生支援					
7-1. 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？					
はい →		会議体名称		議事録有無	
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
①新入生実態調査結果		②在学生実態調査結果		③授業評価アンケート結果（学部）	
⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	
⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	
⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率		⑫休学・留年・退学（除籍）率	
⑮その他（用いたものを全て記載してください）→					
いいえ					
7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。					
学生が能力に応じて自律的に学習をすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）		回答根拠 →			
新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。		回答根拠 →			
各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。		回答根拠 →			
7-3. 7-1,7-20検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。					
7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）					
11. 学生実態調査に基づく点検					
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）					
確認・検証会議体名称				議事録有無	
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点					
改善を要する点（予定時期も明記してください）					

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は**2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動**です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

マンガ学部

4A. 教育・学習（教学マネジメント）

4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行なう、部局執行部の取組として実施していますか？

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-3. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

会議体名称

議事録有無

4A-4. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

4A-5. 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。

回答根拠→

4A-7. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

回答根拠→

4A-8. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4A-9. DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て**に○を選択してください。

①新入生実態調査結果

⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）

⑨GPA分布状況

⑬標準修業年限卒業率

⑯学部別独自指標（活用したものを全て記載）→

②在学生実態調査結果

⑥必修科目修得状況（学部/全学）

⑩成績分布状況（専門/共通）

⑭実績就職率

③授業評価アンケート結果（学部）

⑦単位修得状況（専門/共通）

⑰学修ポートフォリオ

④卒業時実態調査結果

⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）

⑱休学・留年・退学（除籍）率

4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

4B-3. 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→

4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

はい →

どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。

大学HP

学習のびき2025（当該ページを記載してください。）→

p.

その他 →具体的に右に記載してください。（

いいえ

4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。

5. 学生の受け入れ

5-1. 学部におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）

回答根拠を記載してください→

7. 学生支援

7-1. 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

はい →

会議体名称

議事録有無

確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓

①新入生実態調査結果

⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）

⑨GPA分布状況

⑬標準修業年限卒業率

⑯その他（用いたものを全て記載してください）→

②在学生実態調査結果

⑥必修科目修得状況（学部/全学）

⑩成績分布状況（専門/共通）

⑭実績就職率

③授業評価アンケート結果（学部）

⑦単位修得状況（専門/共通）

⑰学修ポートフォリオ

④卒業時実態調査結果

⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）

⑱休学・留年・退学（除籍）率

いいえ

7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）

回答根拠 →

新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。

回答根拠 →

各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。

回答根拠 →

7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

11. 学生実態調査に基づく点検

11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになります。）

確認・検証会議体名称

議事録有無

11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の**教育内容を中心に**、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点

改善を要する点（予定時期も明記してください）

11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の**教育内容を中心に**、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点

改善を要する点（予定時期も明記してください）

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書									
自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保证することを目的とし、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は 2025年4月～2026年度5月末までの教育・研究活動 です。 回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで									
全学教育機構									
4A. 教育・学習（教学マネジメント）									
4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-2. 現状の学部DP、CPの適切性（DP：共通教育で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。									
はい →		会議体名称				議事録有無			
いいえ									
4A-3. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。									
		会議体名称				議事録有無			
4A-4. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。									
4A-5. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）									
4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。									
		回答根拠→							
4A-7. 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）									
		回答根拠→							
4A-8. DP,CP,APIに基づく共通教育について、各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。									
4A-9. DP,CP,APIに基づく共通教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。									
4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）									
※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、 アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと を指します。 学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。									
4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の 学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て に○を選択してください。									
☐ ①新入生実態調査結果		☐ ②在学生実態調査結果		☐ ③授業評価アンケート結果（学部）		☐ ④卒業時実態調査結果			
☐ ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		☐ ⑥必修科目修得状況（学部/全学）		☐ ⑦単位修得状況（専門/共通）		☐ ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）			
☐ ⑨GPA分布状況		☐ ⑩成績分布状況（専門/共通）		☐ ⑪学修ポートフォリオ		☐ ⑫休学・留年・退学（除籍）率			
☐ ⑬標準修業年限卒業率		☐ ⑭実就職率							
☐ ⑮その他独自指標（活用したものを全て記載）→									
4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。									
4B-3. 共通教育の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）									
		回答根拠→							
4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？									
はい →		どこで説明されていたかを○で選択、記載してください。		☐ 大学HP		☐ 学園のてびき2025（当該ページを記載してください。）→		☐ p.	
				☐ その他 →具体的に右に記載してください。		(		)	
いいえ									
4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。									
11. 学生実態調査に基づく点検									
11-1. 前年度卒業時および在学生実態調査結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）									
確認・検証会議体名称				議事録有無					
11-2. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。									

評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	
11-3. 前年度卒業時および在学生実態調査結果のうち、自由記述データから、自部門の 教育内容を中心に 、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。	
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	
改善を要する点（予定時期も明記してください）	

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とし、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木） 17:00まで

芸術研究科

4A. 教育・学習（教学マネジメント）

4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-2. 現状のDP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。 CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-3. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

会議体名称

議事録有無

4A-4. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

4A-5. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。

回答根拠→

4A-7. 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

回答根拠→

4A-8. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4A-9. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うことを指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全てに○を選択してください。

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

4B-3. 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→

4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

はい →

どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。

大学HP

学習のてびき2025（当該ページを記載してください。）→

p.

いいえ

その他 →具体的に右に記載してください。（

4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。

5. 学生の受け入れ

5-1. 研究科におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）

回答根拠を記載してください。

→

7. 学生支援

7-1. 各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

はい →

会議体名称

議事録有無

確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

いいえ

7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）

回答根拠 →

新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。

回答根拠 →

各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。

回答根拠 →

7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とし、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木） 17:00まで

デザイン研究科

4A. 教育・学習（学修マネジメント）

4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-2. 現状のDP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。 CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-3. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

会議体名称

議事録有無

4A-4. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

4A-5. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。

回答根拠→

4A-7. 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

回答根拠→

4A-8. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4A-9. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うことを指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全てに○を選択してください。

①各種入試結果

⑤GPA分布状況

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

②在学生実態調査結果

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

③授業評価アンケート結果（研究科）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

④修了時実態調査結果

4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

4B-3. 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→

4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

はい →

どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。

大学HP

学習のてびき2025（当該ページを記載してください。）→

p.

いいえ

その他 →具体的に右に記載してください。（

4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。

5. 学生の受け入れ

5-1. 研究科におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）

回答根拠を記載してください。
→

7. 学生支援

7-1. 各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

はい →

会議体名称

議事録有無

確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓

①各種入試結果

⑤GPA分布状況

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

②在学生実態調査結果

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

③授業評価アンケート結果（研究科）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

④修了時実態調査結果

7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）

回答根拠 →

新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。

回答根拠 →

各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。

回答根拠 →

7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とし、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木）17:00まで

マンガ研究科

4A. 教育・学習（教学マネジメント）

4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-2. 現状のDP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-3. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

会議体名称

議事録有無

4A-4. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

4A-5. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。

回答根拠→

4A-7. 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）とDP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

回答根拠→

4A-8. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4A-9. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うことを指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全てに○を選択してください。

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

4B-3. 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）とDP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→

4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

はい →

どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。

大学HP

学習のてびき2025（当該ページを記載してください。）→

p.

いいえ

その他 →具体的に右に記載してください。（

4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。

5. 学生の受け入れ

5-1. 研究科におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）

回答根拠を記載してください。

→

7. 学生支援

7-1. 各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

はい →

会議体名称

議事録有無

確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

いいえ

7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）

回答根拠 →

新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。

回答根拠 →

各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。

回答根拠 →

7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

2026年度実施 部局別自己点検評価報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とし、大学の主体的・恒常的な取組です。点検対象は2025年4月～2026年度5月までの教育・研究活動です。
回答期限：2026年6月25日（木） 17:00まで

人文学研究科

4A. 教育・学習（学修マネジメント）

4A-1. この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-2. 現状のDP、CPの適切性（DP：所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か。 CP:DPの達成につながる科目や課程を体系的に編成しているか）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

はい →

会議体名称

議事録有無

いいえ

4A-3. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

会議体名称

議事録有無

4A-4. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

4A-5. DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

4A-6. シラバスの「授業の目的、到達目標」に対する「評価方法、評価基準」は、出席を除いた具体的な要素により設定されていますか？該当するものを選んでください（5段階）。

回答根拠→

4A-7. 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

回答根拠→

4A-8. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について各教員の理解を深めるために、点検対象期間中に実施した対策やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

4A-9. DP,CP,APに基づく自研究科の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

4B. 教育・学習（DPに基づいた学修成果の把握）

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うことを指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

4B-1. アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全てに○を選択してください。

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

4B-2. 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

4B-3. 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか） 、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の関連性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→

4B-4. DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

はい →

どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。

大学HP

学習のてびき2025（当該ページを記載してください。）→

p.

いいえ

その他 →具体的に右に記載してください。

4B-5. 学修成果の設定や測定方法等について、今年度以降に変更や改善予定の取り組み、課題等があれば、具体的に記載してください。

5. 学生の受け入れ

5-1. 研究科におけるAPの適切性（DP、CPと一貫性があるか）について検証し、該当する結果を選んでください。（5段階）

回答根拠を記載してください。

→

7. 学生支援

7-1. 各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

はい →

会議体名称

議事録有無

確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓

①各種入試結果

②在学生実態調査結果

③授業評価アンケート結果（研究科）

④修了時実態調査結果

⑤GPA分布状況

⑥必修科目修得状況（研究科/全学）

⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）

⑧休学・留年・退学（除籍）率

⑨実就職率

⑩研究科独自指標（活用したものを全て記載）→

7-2. 以下の各項目について自部門において点検し、該当する回答（○、△、×）を選択し、その回答根拠を具体的に記載してください。

学生が能力に応じて自律的に学習をすすめられるようサポートする仕組みを整備しているか（補修、補充教育、学習相談等）

回答根拠 →

新入生をはじめ学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（交流機会の確保等）を行っているか。

回答根拠 →

各課程や分野等における必要性、学生の特性等に応じ、就職支援や職業的自立に向けたキャリア教育・支援等を行っているか。

回答根拠 →

7-3. 7-1,7-2の検証結果を活用して、点検対象期間中に変更や改善を行った点やグッドプラクティスがあれば、具体的に記載してください。

7-4. 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）